

吉田学長は、平成29年8月9日の緊急記者会見で、以下のとおり発言しました。

旭川医科大学の入試制度(地域枠制度)について

北海道新聞社の8月1日付の朝刊において、「旭医大 地域枠5名減へ」、また同社の8月2日付の朝刊には「旭医大 地域枠5減方針「余る時代来る」との見出しで、いずれも旭川医科大学（以下「本学」という。）が地域枠を5名減少し、地域の医師確保にマイナスの影響を与えかねないとの論調が展開され、誤解を招く可能性が否定できないため、改めて本学の「地域枠」について説明いたします。

1)北海道の地域枠医師制度

文部科学省は「緊急医師確保対策」として、平成21年度から平成29年度までの9年間に限定した、奨学金を利用して各都道府県が定める医師養成数の臨時的な増員を行い、本学でも7名が増員されました。

また、「経済財政改革基本方針2009」において、平成22年度から平成31年度までの増員計画があり、本学でも10名が増員され、併せて17名分が北海道の奨学金地域枠医師制度を適用することとなりました。
(平成29年度現在)

2)本学独自の地域枠制度

平成29年度現在、本学には、(北海道新聞記事にある)北海道の地域枠医師制度とは別に、独自の地域枠の入試制度があり、それぞれA〇入試北海道特別選抜40名、推薦入試道北道東特別選抜10名、医学科2学年編入の5名を併せて55名もの地域枠があります。

この55名の地域枠入試で入学した学生は、地域医療に貢献する確約書の提出を義務づけておりますが、北海道の奨学金を受給することを要件とはしていません。

3)平成30年度の本学の地域枠

平成29年度限りの緊急医師確保対策分の7名を減らした後、増員計画の延長の打診があった時点では、延長しない方針といたしました。

しかしながら、文部科学省の助言等もあり（同期の山形大学医学部も5名減員となることから）、7月5日北海道と協議を行い、平成30年度から2年間、2名の増員計画を文部科学省へ申請いたしました。

（一方、平成30年度から、AO入試「国際医療人特別選抜」5名を新設した関係から、AO入試北海道特別選抜から5名を減らしましたが、上述の増員分の2名については、AO入試北海道特別選抜に加え37名として
います。）

（この結果、増員計画が認可された場合、本学の地域枠は52名（44.4%）となります。これとは別に北海道の地域枠医師制度の奨学金受給枠が12名となります。結果、定員117名のうち、最小で52名、最大64名が地域枠となります。）

なお、北海道の地域枠医師制度の奨学金受給枠を減らした背景としては、北海道の地域枠医師制度では、卒業後の2年間の初期臨床研修における基礎トレーニングの後、専門科での訓練を行うことなく、地域勤務が課されることとなっています。これでは、地域の病院で必要とされる専門性の高い医師を提供することができず、また、これらの医師にとっては、本来、内科、外科、眼科、耳鼻科などの専門的な経験を積むべきタイミングに地域勤務が課されることから「専門医の質を高め、良質な医療が提供されること」を目的としてできた新専門医制度による専門医の取得も遅れるという、医師としてのキャリアロスに繋がり、医師の意欲低下、ひいては地域医療の質の低下に繋がるためであります。

4) 本学で地域の医師不足解消のためにしている取組み

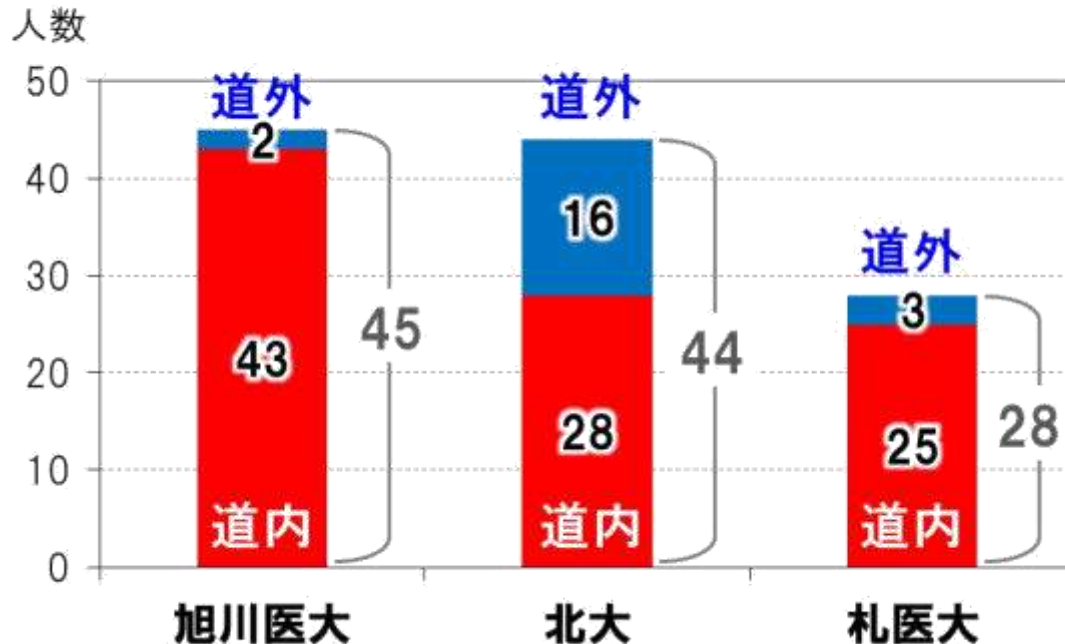
ア) 入試制度改革

本学では、北海道の地域枠医師制度が始まる前年の平成20年度から、推薦入試 道北道東特別選抜10名を新設、さらには編入学10名のうち5名を地域枠とし、北海道の地域医療の充実に向け、旭川医科大学独自の地域枠をスタートさせました。翌年21年度には、AO入試北海道特別選抜35名（平成22年度には40名に増員）としており、平成29年度現在、定員122名のうち55名（45%）の地域枠としての特別入試制度を設けており、この割合は全国の大学においてもトップクラスの位置を占めております。

さらには、一般入試で合格する道内出身者もあり、毎年60%を道内出身者が占めており、多数の人材を北海道で勤務する医師として輩出するに至っております。

さて、このような本学独自の地域枠制度を実施した結果、次ページのような成果が出ました。

昨年採用した1年目初期臨床研修医



イ) 地域医療教育学講座を設置

本学では、①卒前から卒後の地域医療に関する一貫教育、②地域医療医のキャリア支援、③関連教育病院との間で地域医療教育実践のための企画や運営、④地域医療及び地域医療教育の研究などを担うために、平成22年2月に設置しました。

ウ) 高大病連携による「ふるさと医療人」育成の取組

「地域社会が地域の医師を育む」という視点から、地域の高等学校や地域医療機関と連携し、高校生に「医療人としての職業観」の自覚を促すことを目的として体験実習やワークショップ等を提供することにより、また、入試から学部教育、卒業研修までを一貫して、将来地域医療に従事する医療職者、すなわち「ふるさと医療人」を育もうという取組です。

北海道内各地の医師を志す若者が、大学卒業後、道内の比較的医療が手薄な地域に従事することや、卒業後も地域医療のヘルスコーディネー

ターとして活躍できるように、生涯学習を実践し後継者の育成ができる人材となることを目標として平成20年度から取り組んでいます。

エ) 地域への医師派遣

本学では、医師派遣室を設置し、地域医療機関等からの医師派遣依頼への対応、各講座・診療科との連絡調整等を行っており、地域からの要請を受け、毎年600名程度の派遣を行っており、地域の病院で必要とされる専門性の高い医師を供給しています。

以上、本学の教育理念・目標にも掲げているとおり、上記4)に掲げた取組みの継続、さらには、世界的視野を持った優秀な医師の育成を行い、将来、日本人のみならず海外の外国人患者の対応や、遠隔医療を活用して北海道を基点とした地域医療に貢献できる人材育成に注力しております。

また、地域医療の充実に向けては、今後も本学独自の様々な取組みを通じ、北海道及び地域の自治体とも連携を取りつつ、北海道の地域社会に貢献してまいります。

平成29年8月9日

旭川医科大学長 吉田 晃 敏

医学部医学科の入学定員について

医学部医学科では、「緊急医師確保対策」に基づき、北海道内における医師不足を解消する観点から、同学科の入学定員（表1）において、7名の臨時増員が平成29年度まで認められておりました。

平成30年度の入学定員は、7名減の105名となるとともに、AO入試に「国際医療人」枠を新たに設けることといたしました。（表2）

なお、同学科における入学定員の2名増員を文部科学省に申請する予定です。

今回の申請では、平成30年度入学者選抜要項において表3のとおり、AO入試北海道特別選抜の募集人員に含めることを計画していますが、今後の文部科学省での審議により、変更になる場合があります。

申請の結果等につきましては、決定次第、本学ウェブサイトでお知らせします。

旭川医科大学ウェブサイト【<http://www.asahikawa-med.ac.jp/bureau/nyusi/>】

表1 平成29年度

入学定員	募集人員			
	一般入試		AO入試 北海道特別選抜	推薦入試
	前期日程	後期日程		
112	40	22	40	10



表2 平成30年度

入学定員	募集人員				推薦入試
	一般入試		AO入試		
	前期日程	後期日程	国際医療人	北海道特別選抜	
<u>105</u>	40	15	<u>5</u>	<u>35</u>	10

-7名



表3 平成30年度【増員計画(認可後)】

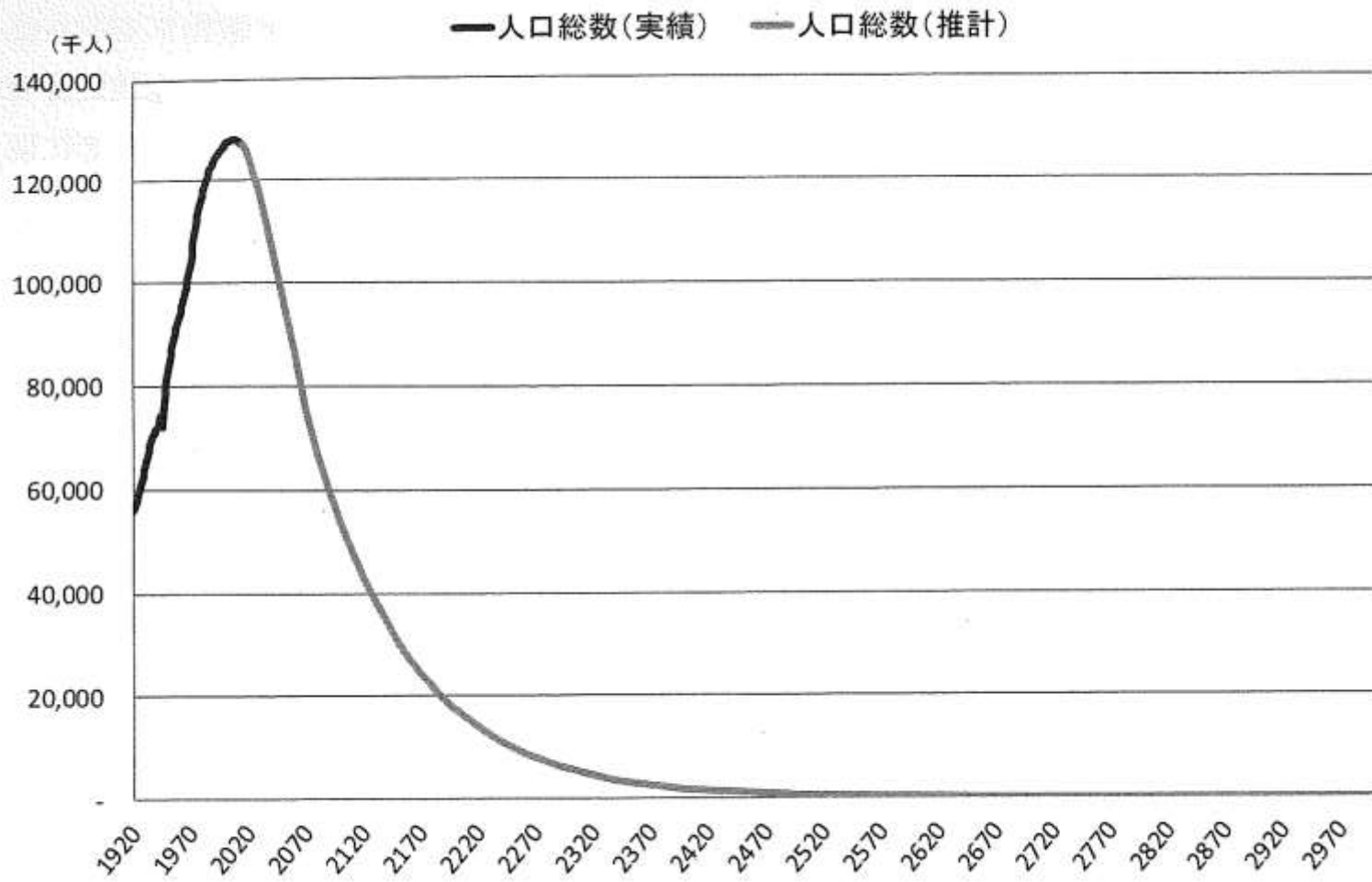
入学定員	募集人員				推薦入試
	一般入試		AO入試		
	前期日程	後期日程	国際医療人	北海道特別選抜	
<u>107</u>	40	15	5	<u>37</u>	10

-7名

+2名

-5名

図1 仮に、出生数、死亡数が今後一定で推移した場合の将来の人口



出典：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集（2015）」より作成。

今年の医師国家試験合格率 (新卒+既卒)

